



ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会 2008年（平成20年）10月15日号 No. 1443

目次

■ 極東からユーラシアに広がる日本の中古車輸出.....	齋藤 大輔 1
■ トピックス	6
JA全農がモスクワの見本市に出展／6	
宮城県が対ロ貿易促進のコンソーシアム／6	
木工機械メーカー2社がロシア向け機械を受注／6	
双日がウズベクでウラン探鉱・開発／7	
モスクワ国立大、世界で183位／7	
■ エトセトラ	7
ロシア・トムスク州プレゼンテーション開催される／7	

極東からユーラシアに広がる日本の中古車輸出

はじめに

近年、日本からロシアへの中古車輸出が大きく伸びている。また、中古車輸出は、ロシア以外のユーラシア諸国にも拡大しつつある。そこで本号では、財務省発表の貿易統計の分析とともに、ロシア極東の中古車ビジネス最新事情、キルギスの右ハンドル車規制論議などについてもお伝えする。

なお、当会発行の『ロシアNIS調査月報』11月号（10月20日発行）では、「日ロ自動車ビジネスはどこまで広がるか」と題する特集を組んでいるので（内容は後掲）、そちらの方もぜひご利用いただければ幸いである。

拡大を続ける中古車輸出

財務省が7月30日に発表した2008年上半期の中古乗用車輸出台数は前年同期比14.1%増の57万9,582台と2年連続して50万台を超えた。5割弱（44.9%）がロシアに回っており、アラブ首長国連邦（UAE）、ニュージーランド（NZ）、英国、南アフリカ共和国の伝統的な輸出先の落ち込みをロシアがカバーしている構図だ。

ロシア向け輸出は同28.9%増の26万台超となり、上半期としては過去最高に達した。ロシア向けは通常、夏から秋にかけて本番を迎える。通年ベースで50万台を超えるのは確実だ。